

研究タイトル:メルロ＝ポンティ哲学研究 (他に、間文化現象学研究、哲学対話
 研究、視覚・身体に関する思想史研究)



氏名: 佐藤 勇一 / SATO Yuichi E-mail: y-sato@fukui-nct.ac.jp

職名: 准教授 学位: 博士(文学)

所属学会・協会: 日本現象学会, 日仏哲学会, 関西哲学会, 関西倫理学会,
 メルロ＝ポンティ・サークル, 日本ミシェル・アンリ哲学会

キーワード: メルロ＝ポンティ, 間文化性, 視覚論, 身体論

技術相談
 提供可能技術: ・メルロ＝ポンティ, 間文化性, 視覚論, 身体論に関する講座
 ・
 ・

研究内容:

【メルロ＝ポンティ研究について】

メルロ＝ポンティの哲学を中心に、哲学・現代思想について研究しています。これまでに、メルロ＝ポンティ関連の翻訳に携わるとともに、メルロ＝ポンティが哲学以外の領域(心理学, キリスト教, 芸術, 人類学など)との対話を通じて、古典的な哲学(とくに 17 世紀)が問題にした「存在」「自然」「人間」の関係を、古典的な仕方とは別の仕方ですてえ直していることを明らかにしてきました。今後は晩年の未公刊草稿も視野に入れることによって、メルロ＝ポンティ研究の深化を目指すとともに、後期思想の応用可能性について探り、メルロ＝ポンティ研究の拡張も目指します。

【間文化現象学、哲学対話について】

間文化現象学という、文化と文化の間で生起する間文化的な諸現象を現象学的に解明するプロジェクトに 10 年以上参加してきました。また、2018 年より p4c(子どもの哲学)という近年世界の国や地域で実践されている哲学対話に取り組み、国内やハワイの教育実践から学び始めました。今後は p4c のような教育実践研究、身体に関する哲学以外の分野との共同研究など、哲学研究(とくにメルロ＝ポンティを中心としたフランス哲学研究)を中心にしつつ他の分野と関わる新たな研究領域の創出を目指します。

【「視覚」について】

これまでも、メルロ＝ポンティの芸術論を取り上げたり、ケプラーやデカルトの光学に関するメルロ＝ポンティの視覚論を、間文化現象学的に取り上げたりするなど、「視覚」を主要な研究テーマのひとつとしてきました。ジェイの視覚に関する著作『うつむく眼』の翻訳もしました。鯖江市や大野市の図書館での講演など、メルロ＝ポンティや視覚に関する講演で地域に貢献してきました。今後は、フランス哲学における視覚に関する考察を現象学のみ限定せずに取り上げたりすることによって、「視覚」や「技術」、「身体」に対して思想的にアプローチする研究に取り組んでいきたいと考えています。